

第2回情報発信の在り方等に関する検討会 資料

消費者団体とELV機構との意見交換

概要

- 日時 2015年3月17日(火) 10:00~11:45
- 場所 廃棄物・3R研究財団8階会議室
- 目的 ELV機構広報部会による取材：解体業界以外のさまざまな業界へ取材を行って、そこから得た新たな知見をELV機構会員へフィードバック^(※)するため。 (※)別紙参照
- 取材先 NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
事務局長 鬼沢 良子 様

主な内容（鬼沢様から伺ったご意見を一部抜粋しました）

日本の自動車リサイクル

- ・自動車リサイクルに関して、ヨーロッパでいろいろ取材を行ったが、一番思ったのは、日本の自動車リサイクル法は素晴らしい法律だということ。
→ ドイツは年間140万台（廃車の44%）の行方不明車がある、それと比べたら日本はすごい。
- ・日本はうまくいっているからこそ、もっと「将来どうするべきか」ということを明確にしていく必要があると思う。
→ もっと先を考えて、将来を考えて、どうあるべきか。
- ・今ちゃんとリサイクルできているものがあるが、できていないものもある。将来を見据えたら、今のうちからちゃんと研究開発をしなくてはいけないものもたくさんあるだろう。
→ 今いただいているリサイクル料金の活用方法ももっとあるのではないか。

自動車ユーザーからみた自動車リサイクル

- ・ユーザー側からすると、車を購入して廃車するまでの間は結構長い。大体12年~13年は必ず乗るので、その間はあまり自動車リサイクルに関心を持たないで過ごしてきてしまう。
→ それをもう少し意識できるようにすることが大切だと思う。
- ・ユーザーの関心が少ないというか、皆さんのような団体（ELV機構）がどうしているか、ユーザーは知らないのではないか。
- ・ユーザーは自動車リサイクルと直接関わるのが少ない。車に毎日乗っていても、本当に手放すときじゃないと、そこに関係しない。
- ・（地元で自動車リサイクルの啓蒙活動をしている業者もいるという話から）そういった啓蒙活動は非常に大切なこと。地域の人が「その事業者さんがどうしているか」に関心を持つことが大切。
- ・業界の中だけだったら専門用語でわかり合えるが、消費者だとそういうわけにはいかない。

以上